

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハービー&マックローリン・陽だまり介護センター		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 2 月 1 日 ~ 令和 8 年 2 月 28 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和 8 年 2 月 1 日 ~ 令和 8 年 2 月 28 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 3 月 20 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	① スモールステップによる「できた」の積み重ね	就学を見据え、一人ひとりの発達段階に合わせたプリント教材や知育玩具を自作し、達成感を味わえるスモールステップの学習時間を設けています。	お子様が自ら「やりたい」と思えるよう、興味関心(キャラクターや乗り物等)を反映させた個別教材のバリエーションをさらに拡充します。
2	② 集中力を引き出す「動と静」のプログラム構成	ダンスや運動で身体を大きく動かして発散した直後に、机上学習(静の時間)を取り入れることで、多動傾向のある子ども集中しやすい流れを作っています。	タイマーや視覚的なスケジュール表をさらに活用し、「あとどれくらいで終わるか」を明確に示して、着席保持の時間を段階的に伸ばします。
3	正しい姿勢と「運筆・操作」の基礎固め	鉛筆の持ち方やハサミの使い方など、学習の土台となる微細運動に注力し、適切な補助具や姿勢保持の椅子を個別に選定して指導しています。	作業療法的な視点をより強化し、指先の力加減や目と手の協調性を高めるための「感覚遊びと学習の連動」プログラムを開発します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団の中での「指示理解」と「一斉指示」への対応	個別学習では集中できて、小学校のような一斉指示(「皆さん、～してください」等)に対する反応が遅れてしまう場面があります。	個別支援に重きを置きすぎていました。今後は小集団での「一斉指示を聞いて動く」シミュレーション時間を増やし、集団適応能力を高めます。
2	学習環境における視覚的・聴覚的刺激的の遮断	プレイルームの玩具や掲示物が目に入りやすく、学習中に意識が逸れてしまうお子様への環境調整が、現状のスペースでは不十分です。	物理的な構造化を再徹底します。学習専用のブースに目隠しのサイドパネルを設置したり、ホワイトノイズを活用して「集中ゾーン」を明確化します。
3	学校(小学校)の学習進度や様式の把握不足	就学後の学習へスムーズに繋げるための、地域の小学校で実際に使われている教科書やノートの形式、時間割の情報の蓄積が不足しています。	近隣の小学校との連絡協議会を強化し、実際の授業風景をリサーチします。それに即した「模擬授業形式」の時間を設け、就学不安の解消を図ります。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ハービー&マックローリン・陽だまり介護センター

公表日 令和 8 年 3 月 30 日

利用児童数

5

回収数

4

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。					音楽室を別途設けて部屋を使い分けるなど、十分なスペースの確保に努めております。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。					職員の配置つきましては、充実を図るべく活動しているところでございます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。					多様な障害特性をもった利用者全員に最適化された構造化は難しいところがありますが、全ての利用者の皆様が快適に過ごしていただけるよう運用しているところでございます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。					生活空間については個別指導の空間とは、できる限り分けるなど、配慮しているところでございます。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。					子どものアセスメントについては、該当児童の状況に応じたアセスメントツールを利用しているところでございます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。					通所される児童に応じた支援内容を策定の上、支援プログラムの実施に取り組んでいるところでございます。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。					通所を希望される児童について、保護者の方の希望を聞き取りながら支援計画を作成しているところであり、これらの項目はガイドラインにも沿ったものになるよう留意しながら作成にあたっていただいております。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。					児童発達支援計画に基づいた支援を行うほか、利用児童の成長に合わせたご提案などを心がけているところでございます。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。					活動プログラムについては通所される児童に合わせ適時内容が進むよう取り組んでいるところであります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。					年間行事の中で施設外での活動では、障害のない子どもと活動する機会を設けられるよう、誠意努力を重ねてまいります。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。					
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。					重要事項説明書等、説明資料を用意の上、できる限りのご説明に努めているところでございます。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。					家族支援プログラムについては、児童支援とは別に必要に応じて検討しているところでございます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。					父母会などの活動については年間のイベントへの参加を通じて支援を行っていきたいと考えております。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。					じ、利用されるご家庭への理解を深められるよう、努めているところでございます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。					父母会などの活動については年間のイベントへの参加を通じて支援を行っていきたいと考えております。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。					

	19	ごどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、ごどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。						保護者の皆様とのコミュニケーションにつきましては都度話し合いの場を持つなどを心がけております。
	20	ごどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。						
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をごどもや保護者に対して発信されていますか。						定期的な会報の発行などは特にありませんが、行事予定などは都度配布するようにしております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。						書類関係、写真画像等、個人情報に関わるものは丁寧かつ安全に管理しています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。						社内設置の委員会を中心に、マニュアルの策定、各事業所ごとに研修、周知を行っています。保護者様へも機会を捉えて周知を行って参りました。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。						避難訓練の随時実施を行っております。
	25	事業所より、ごどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。						事業における災害対応の詳細などについては機会がある毎にご説明するように努めているところでございます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。						利用される児童のみなさまに事故などがありましたら、可及的速やかにご報告できるよう努めてまいります。
満足度	27	ごどもは安心感をもって通所していますか。						利用される児童の安心安全を確保するための取り組みを継続的に行っているところでございます。
	28	ごどもは通所を楽しみにしていますか。						アンケートの結果を踏まえ、より良いサービスの実現に努力してまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。						アンケートの結果を踏まえ、より良いサービスの実現に努力してまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 ハービー&マックローリン・陽だまり介護センター

公表日 令和 8 年 3 月 30 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。				

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。				
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。				
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。				
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。				
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。				
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。					
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。					
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。					
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。					

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。				
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。				
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。				
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。				
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。				
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。				
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。				
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。				
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。				
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。				
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。				
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。					
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。					